一般質問 あなたの声を町政に

一般質問時間は、一人30分 一問一答方式で行いました

問 豊松地区に常設診療所設置を

橋本輝久議員

答 現状では極めて困難だ

Q 昨年12月から、2回にわたる一般質問で豊松地区に診療所を設け、受診できるようにとの要望に対して、「きわめて困難であり、医師の確保が最優先だ。」「非常に困難な事案であるが鋭意努力している。」「私の政治生命をかけ最善の努力をする。」との答弁であった。

「鋭意努力」の経過と現在の状況は。

A 町長 少ないスタッフで町立病院の運営にあたっているのが現状であり、そのなかでの苦渋の発言は、重く受けとめている。

しかし、現状を考えると、常設の診療所は極めてむずかしい。また常設ではなく、もう少しちがった診療所であるならば、町立病院・陽正会などとの協議の場を設けて検討しても良いと思っている。

町立病院では5名の常勤医師体制だが現在4名で診療にあたり、各医療機関から、臨時的に応援をいただき対応している。

一ヶ月の医師総数が約40名の勤務表になっているのが現状である。

Q 豊松地区への設置をお願いする署名活動を行ない、15日に陳情された。常設診療機関の設置を求める署名活動を行った住民の思いを、どう捉えているのか。

A 町長 その行為とお気持ちを重く受けとめている。

Q 神石高原町学校配置検討委員会が設置され、子どもたちの教育環境整備、将来の教育ビジョンなどについて、議論が展開中である。答申を受け、その後の展開はどうなるのか。

A 教育長 学校配置検討委員会の答申が8月末にあり、これを尊重し、教育委員会で検討し方向性を決定する。

その後、各地区での説明会を行う。

Q 同時進行で、それぞれの地区で、保・小・中のPTAや地域の各団体などで、配置の問題についていろんな意見を聞くためにも、議論の場を設けては。

A 教育長 今後、議論の場を設け、実施したい。

問 産直市場に常勤社長を

小川清治議員

答 カリスマ的常勤社長を公募採用したい

Q 産直市場3店舗の総売上は6億5900万円と大きく、農業者・産品生産者の生活支援、農地荒廃防止、生きがいや健康づくりに役だっている。

道の駅も町の玄関口であり、地域コミュニティーの拠点として改装されている。3店舗の社長は町長、副町長であり、多忙な公務を抱え社長として先頭に立って経営刷新や課題の解決にあたる状況にはない。

この際3店舗を統合し、地域の拠点として、維持拡大を図る体制が必要と思うが。

A 町長 ひとつには、経費削減のため町長、副町長が社長をしてきた。

まだ内部調整はしていないが、カリスマ的な社長を公募し採用したい。3施設の出荷者協議会も含めた統合をし、将来に向けて維持拡大できる体制づくりを図る。

Q 神石高原町には、すばらしい食材がたくさんある。これを使い各種団体と官・民連携でブランド産品の開発と支援で地産地消を推進すべきでは。

A 町長 地域の食材を使ったブランド商品の開発を、商工会や生活研究グループなど各種団体が連携して行っている。町として支援をしていきたい。

＝その他の質問＝

＊エネルギー資源の方向は。

油木百彩館

問 我が町の防災対策は万全か

寄定秀幸議員

答 「地域防災計画」を大幅に見直す

Q 町民の生命・財産・くらしの安全と産業活動の安全・安心を確保するため、【地域防災計画】を見直すべきでは。

A 町長 過去の主な災害、豪雨・洪水などをもとに、風水害や土砂災害を想定。

県とも連携し【地域防災計画】を大幅に見直す必要がある。

Q 昨年7月発生の近田地域の地滑り災害に対しては、被災者への生活支援が第一である。

シートをかけたままの倒壊した家を目の前に、大事な物を取り出すことさえ出来ずに一年が経過しようとしている。

被災者の生活再建・復興支援を全力ですべきだ。

A 町長 個人の救済と言うことで厳しいものがあるが、そこを越えて、救済していくんだとの意識のもとで検討し、出来るだけの対応をしていきたい。

Q 県の「瀬戸内 海の道構想」と連動した、「中山間地域観光メニュー強化事業」への具体的な取り組みは。

地すべり災害現場復旧状況

A 町長 湯崎知事の「瀬戸内海の道構想」を中山間地域にも拡大する取り組みである。ソフト事業として庄原市と神石高原町が連携して取り組む。

帝釈峡遊歩道の復旧整備を求める要望活動が功を奏したと思う。

Q 不育症とは、妊娠はするが出産にいたらない病気である。適正な検査と治療によって85%の患者が出産にたどり着くといわれているが、検査や治療費は保険適用外で高額なため、出産をあきらめるケースがある。

経済的負担軽減と少子化対策として公費助成制度を創設すべきでは。

A 町長 治療に関わる国の動向を注視し対応を検討したい。

問 なぜ委託したのかトマトソース

村上克朗議員

答 トマト工房にはノウハウや設備がない

Q 町最大の振興作物である「神石高原トマト」の現状と食品関係事業者に委託した理由は。

A 町長 トマト工房のおいしいソースは、現在メーカーに製造委託している。

トマト工房は地域雇用拡大の場で、製造メーカーのようなノウハウや設備・製造能力がない。

A 産業課長 袋培地栽培14トン（桃太郎）が中心で、生食はJAに出荷し、完熟した物をピューレに加工しソースメーカーで委託加工している。

ピューレのままでは購入者がいない。また、その他の商品に加工するための設備もないので外注した。

ピューレを二次加工したドレッシングやソースを販売している。

Q 農林水産業チャレンジプラン、売れる物を作る生産体制の確立は。

A 産業課長 消費者の希望を調査する「アグリマーケティング強化事業」で加工品アドバイスをする。

Q 油木百彩館の店長とまるごと市場の店長交代は転勤か異動か。

A 町長 どちらでもない、退職してから再雇用した。

Q 人事交代により売上が減少していないか、出荷の現状は。

A 産業課長 まるごと市場の店外販売のうち、赤字の売場は閉店する。

売上は若干下がるが利益率は向上する。

トマト工房　トマトピューレ加工室